

次期県立高等学校活性化計画（仮称）策定にあたっての論点

1 高校教育を取り巻く環境の変化等について

- 少子化の進行に伴う生徒数の減少や、社会で求められる人物像の変化、高等学校と大学の接続改革をはじめとする教育制度改革など、高校教育を取り巻く環境の変化が生じている。

**【論点1】** 今後の本県の高校教育を考えるうえで、見逃してはならない環境の変化や、現状の高校教育が抱える課題等は何か。

2 県立高等学校の特色化・魅力化について

- 本県では、これまで特色ある教育活動の充実や、学校の統合や学科の新設などを通じて学校の特色化・魅力化を進めてきた。

**【論点2】** 高校教育を取り巻く環境変化や課題を踏まえ、これからの本県の高校教育に求められるものは何か。  
また、今後取り組むべき具体的な方策（先進的な学校、全国初の取組を含む）等についてどのような取組が考えられるか。

3 県立高等学校の規模や配置について

- 現行の県立高等学校活性化計画では、学校の活力の維持や充実を図っていく観点から県立高等学校の適正規模を1学年3～8学級としている。
- 県内各市町で地方創生に係る取組が進められており、人口減少が進む地域では若者の定着、地域の担い手育成、地域活性化等の観点から、県立高等学校の役割が重要視されている。

**【論点3】** 次期計画では、地域の状況や学校の果たす役割、学校の特色等に配慮しながら、県立高等学校の適正な規模や配置のあり方を整理する必要がある。どのような方向性が考えられるか。